

次世代サービス先導



静大に新設の行動情報学科

湯浦克彦 学科長に聞く

静岡大情報学部（浜松市中区）に本年度、行動情報学科が新設され、情報科学科と情報社会学科と合わせて三学科制となった。学部の定員も四十人増え、情報科学科は百人、行動情報学科と情報社会学科は各七十人で計二百四十人となつた。新学科設置の狙いや、学べる内容などを行動情報学科長の湯浦克彦教授（60）に聞いた。（聞き手・石川由佳理）

行動情報学科設置の狙いなどについて語る湯浦学科長＝浜松市中区で

ゆうら・かつひこ 岐阜市生まれ。大阪大大学院情報科学研究科博士課程修了。1980年、日立製作所中央研究所研究員。同社ビジネスソリューション事業部データコンサルタントなどを経て、2006年に

日立コンサルティングテクニカルデータレクター。08年から静岡大教授。専門は情報サービス学。

行動情報学科新設の狙いは。情報学部では二〇〇四年度から、二学科三プログラム制を取つていた。そのうちの一つは、そこにあるものをISプログラムを深く知ることとするが、ISプログラムが個人の生活や企業の業界と密接に連携する。具体的には、ISプログラムが行動情報学科では知つた上で何をするかを見ていく場面を見てき

ける。非常に手助けする。ただし、学生が独創的な発想をして力を伸ばしていく場面を見てき

る。非常に高い分野。三年くらい前から新設に向けて動いていた。

「どんなことが学べるのか。情報通信技術（ICT）を活用したデータによる問題解決や、情報サービスの設計、情報サービス学のマネジメントなどを報ビジネス・システムの設置一年目の意気込みを。」

業にも情報システムをよう提案し、実現で